

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるろ

2018～2019年度

国際ロータリー会長 **バリー・ラシン**
2560地区ガバナー **川瀬 康裕**
高田ロータリー会長 **牧野 章一**
幹事 **佐藤 教彦**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第13回例会 ■ 10月5日(金)

No.13

会長挨拶 ● 牧野 章一



智
恵

昨日、地区大会記念ゴルフ大会が湯田上 CC で開催されました。まずまずの天候で楽しむことができました。参加された大谷さん、高橋さん、古淵さんには朝早くからご苦労様でした。ちなみに4人の平均ストロークは90.5でありました。

今月は米山月間です。米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家・米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。“1ヶ月のタバコ代を節約して、留学生支援に”というスローガンで、1952年に東京ロータリークラブで始められたこの運動は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、今日に至っています。奨学会の目的は、勉学、研究を志して在留している外国人留学生に対し、全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援することです。特色として、奨学金による経済的な支援だけでなく、奨学生とロータリアンとの交流があります。奨学生一人ひとりに世話クラブとロータリアンのカウンセラーがつき、奨学生の個人的ケアに当たります。会員の皆様には一人20,000円の目標が来ていますが、この趣旨をご理解いただき多くのご寄付をお願いします。

出席報告

出席率 100%

メイクアップ

石倉 悟君・山崎公一君 (9/29・30 ライラ研修)
大谷光夫君・本山秀樹君・高橋正彦君・古淵英一君・中田 正君 (10/4 地区大会ゴルフ大会)
小池猛紀君 (10/6 奉仕プロジェクトセミナー)

委員会報告

親睦委員会——10月のお誕生日各お祝い
ロータリー財団委員会——寄付のお願い
社会奉仕委員会——10/6 高田駅前植栽プランター事業について
国際奉仕委員会——ジョン君ひとこと

会員インフォメーション

渡邊 隆君——10/6 上越教育大学創立40周年記念式典特別講演のご案内

幹事報告

配布物：週報No.12・米山奨学豆辞典
回覧：ガバナー月信10月号

「プランターへの植栽事業」を行いました

社会奉仕委員会

10月6日「第20回城下町高田花ロード」に合わせて、プランターへの植栽事業を高田駅前「高田ターミナルホテル前広場」にて開催しました。

当日は高田RC会員、高田RAC会員の他大町小学校6年生の参加をいただき総勢約80名で賑やかに植栽作業を行いました。

齋藤副会長は「この地域の環境整備の一助になればありがたい。緑は人の心を豊かに、和やかにする。雁木通りの花により地元の通勤通学の皆さんをはじめ、高田に観光やビジネスで訪れるお客

様や外国の方に目で楽しんで心を癒していただきたい」と感謝のあいさつがありました。

マリーゴールドとビオラの苗を約10基のプランターに植栽し、高田駅前の雁木通り周辺に配置しました。



会員卓話

米山奨学委員長セミナー出席報告



君

米山奨学委員長 石田 誠夫君（代読：山本 智君）

9月6日、米山奨学委員会を開催。委員4名全員出席。今年度の方針について活発な議論を行いました。お酒も入り大いに盛り上がり、山田委員は禁酒されていましたが、飲み放題でしたのでその他3名は飲み過ぎました。

米山記念奨学事業について委員会で勉強して来ましたので、あらためて紹介させていただきます。

米山梅吉氏は1868年（明治元年）大和国（現在の奈良県）高取（たかとり）藩士の三男に生まれ、後に米山家の養子になりました。

その後、政治学や文学を学ぶためにオハイオ州ウェスレアン大学へ留学しています。帰国後、30歳で三井銀行に転じ、42歳の時には常務取締役就任、56歳で三井信託を創立し初代社長に就任しています。

米山氏自身の生涯そのものである「他人への思いやりと助け合い」の精神を身をもって実践すると共に、ロータリー運動を日本に導入して東京ロータリークラブを創立、会長に就任しました。

これらの功績を記念して発足した米山奨学事業は、1967年に民間最大の国際奨学事業を行う財団法人として設立の許可を得ています。

米山記念奨学の歴史は、米山奨学金をもとにこれまで18,000人も留学生を日本に迎え入れ、米山学友を送り出しています。日本のロータリアンの友情によって心育んだ米山学友は、今世界で活躍されています。

次に石田委員長が出席した9月1日に行われた委員長セミナーについてご報告いたします。

パストガバナー新保氏の挨拶。その後は我がクラブガバナーエレクト大谷さんの挨拶でした。

エジプトから現在、第3代よねやま親善大使として活躍されているアブデアール・アハメドさんによる素晴らしいスピーチがありました。彼は1952年生まれ、当初はエジプト・カイロで日本語を学ぶ傍ら日本旅行社で通訳として働いていましたが、米山奨学を知り、大阪のロータリークラブがカウンセラーとなり関西大学に留学しました。現在は早稲田大学でエジプトの考古学を研究されており、毎月1回ロータリークラブに出席

し、色々なメンバーから人生経験を聞く事で勉強になっているとの事でした。

また、カザフスタンからの女性留学生の話もありました。日本語が非常に上手で、日本のアニメが大好きという事がきっかけで、米山奨学を利用し留学しています。日本をこよなく愛し、日本の観光事業に興味をもっていて、カザフスタンにも将来、日本のインバウンドの様に沢山の観光客から来てもらうにはどうしたら良いかと学んでいるとの事でした。

今年是全国で2億3千万円の寄付があり、これは昨年より7.1%、1,500万円増でした。西日本の災害の際には、モンゴルの学友が14万円の義援金、中国の学友はボランティアとして活躍され、学友の日本に対する親日感もかなりあるとの事です。

2018年度米山記念奨学生は、新潟県では新規18名、継続9名です。本年高田ロータリークラブは世話クラブではありませんが、近隣の越後春日山ロータリークラブ、直江津ロータリークラブが上越教育大学に2名、新井ロータリークラブはモンゴルから1名を新潟産業大学へ招き入れ、世話クラブとして活動されています。

新潟県の寄付金納入明細額は全国で11番目です。当高田ロータリークラブは2016～2017年において128万6千円でした。そして、2017～2018年においては130万3千円と前年度を上回っています。これは新潟県において8番目に位置し、前年度の9番目から一つ順位を上げて、上越地区では一位です。

今年から、ガバナーエレクト大谷さんの顔もありますので、牧野会長を先頭にこの額をもう少し積み上げ、高田ロータリークラブの名誉の為、順位を上げたいと思っております。その為にも、今後米山奨学生の方からスピーチを頂くなど、その意義をさらに伝えて行ければと思っております。

ロータリーの活動の中において、この米山奨学は非常に誇らしい事業であり、また、大いに日本の社会に貢献している事業であると思えます。今後我がクラブが奨学生の選考や、世話クラブとカウンセラーとして何か係る事ができればと思っております。

私もひとこと

コペルニクスの転回

新潟日報社上越支社 木村 隆君



あいさつが長すぎた。入会初日の自己紹介。思い起こせば恥ずかしい限りだ。ほんの一言しゃべればよかったのに2、3分、いや5分近く話してしまっただろうか。その日の進行を随分遅らせることになった。

語った話はこうだ。初の赴任地・上越での初日、車から大きな夕日が山の端に沈むのが見えた。あの山の名前は何かだろう。ナビを操作するうちに気付くことがあった。

地図は、上が南を向いていた。より広域に広がると、上に長野、右には富山や金沢が見えてきた。前日まで住んでいた新潟市ははるか下方だ。

西洋で使う世界地図は日本が右端にあって、「極

東」と呼ばれるのももっともだと思える。「環日本海」が注目されたころ、日本を上、大陸側を下にした逆さ地図は、日本海が大きな池のように見えたものだ。

自分にとっての「コペルニクスの転回」は、北陸新幹線開業から3年以上たった今では、遅すぎた発見に違いない。

改めて、地域連携の要となる上越地域の地の利を思う。支社のメンバーには「この地で今、働く意味を考えていきましょう」とお願いした。

前職の編集局次長時代は、早朝から深夜までニュース漬け、職場を抜け出せない仕事だった。久しぶりに外の皆さんとつきあえるのがうれしい。どうぞよろしく願います。